

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 24年 5月 28日(月曜日)	開催時刻	13時 30分から 15時 25分
会議名	丸子地域協議会(平成 24年度第 3回)		
出席委員	斉藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、齊藤實委員、笹井文雄委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、中澤ゆかる委員、松山慶子委員、宮坂雄一委員、村松正孝委員、山本進委員 【欠席】宮崎涼委員、宮下正明委員		
市側出席者	宮澤センター次長兼地域振興課長、児玉地域振興政策幹、芹澤市民生活課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター長、小林消防課長、藤沢健康福祉課長補佐、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会(宮澤センター次長)

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ(斉藤会長)

本日は全体会議終了後、2つのグループに分かれて地域課題などについて話し合う、分散会を開催し、第4期としての本格的な意見交換を始めたいと思いますのでよろしくお願ひします。

会議に先立ち、私から委員の皆さんに是非お願ひしておきたいことが1件あります。この地域協議会は、各団体さんの代表という形で参加されている委員の皆さんが半分強、いらっしゃいます。委員さんにおかれましては2年間の任期ということで、任期途中で委員さんが代わるということもありましたが、できれば、我々この20人の仲間で2年間丸子地域のことを真剣に考えていきたいと思っています。是非各団体の皆様は、今のうちから1期2年間をお務めいただけるような形での働きかけをしていただければと思います。よろしくお願ひします。

3 報告

(1) 地域まちづくり方針について

- ・地域まちづくり方針は、第3期協議会委員により見直しが行われ、第1次上田市総合計画の後期基本計画に掲載。この方針に沿って地域づくり、まちづくりが進められる。
- ・事務局から資料説明。

資料 1: 丸子地域まちづくり方針(第1次上田市総合計画[基本構想 H20~ H27] 後期基本計画[H24~ H27])

主な質疑の内容

(委員)まちづくり方針では、「社会環境の変化に対応した中心市街地活性化の方策として、ファーストビルを中心的拠点施設として位置付け…」とあり、23年度の重点目標 3- では、「ファーストビルのテナント入店率を高め利用促進を図る」、24年度目標 3- でも、「丸子ファーストビルの利用促進」とたくさん謳っている。現在のファーストビルは商工会が入っているだけで元気がないと感じる。そのうえ図書館が中丸子に移転し、病院も移転してしまう。計画などに掲載するだけでなく、もう少し本腰を入れて協議会でも考えていかなければいけないと思う。

(地域振興課長)中心市街地の活性化については、御指摘のとおり大きな課題である。なかなか利用促進を図れない中で、入店率は昨年「地域の絆再生会議」が入り少し上がったが、まだ空きがあり、うまくいっていない実態がある。1階は、現在小・中・高校の展示スペースとして活用してい

る部分もあるが、関心が高いという部分までには至っていない。そういう意味でも、住民の皆さんに展示スペースとして活用していただくということも進めていけば人が集まる空間にはなるのではないかと、募集を行うなどしてアイデアを出していきたいと考えている。住民の皆さんの色々な御意見をお聞きしながら進めていくほか方法がない。一緒に考えさせていただければと思う。

(2) 丸子地域自治センターの重点目標について (センター次長)

・平成 23年度丸子地域自治センターの重点目標達成状況と平成 24年度の重点目標について報告。
資料 2: 平成 23年度丸子地域自治センター重点目標の評価、平成 24年度丸子地域自治センターの重点目標

主な質疑の内容

(委員) 平成 23年度重点目標 2- にある「地域づくり研究会」は、具体的にどのような動きになっているのか。先ほどの話では開催されたということだったが、地域協議会で進行状況・取り組み状況の報告がされた記憶がない。昨年度もお願いしたが、地域づくりに関係する色々な動きは、できるだけ地域協議会に報告いただきたい。2点目、24年度重点目標 2- の「鹿教湯温泉再生計画の策定」と 23年度重点目標 2- の「プラン創出研究会」の関係性について。別に取り組んでいる内容か、それとも一体的なものか。3点目、24年度重点目標 1- では、災害時要援護者登録制度「住民支え合いマップ事業」の推進、前年の 23年度は制度の拡大ということで評価は (マル) になっている。23年度から 24年度の取り組み状況を教えてほしい。4点目、23年度重点目標 5は、 ~ 全て評価が (マル) で、非常にセンターづくりの成果が上がっている。24年度は具体的にどんな目標を置いて取り組んでいくのか。

(産業観光課長) 地域づくり研究会は、鹿教湯温泉の集客を目指すということで、それぞれの地域の皆さんが集まり一緒に考えようという会で、昨年は 17回開催。旅館組合の青年部が中心になり活動している。医療部分については、厚生連との情報交換などを行っている。また、農業面では、グリーンツーリズムということで、地元の皆さんが作っている水田等で農業体験のようなものを企画し、皆さんに体験していただきながら新たなアイデアを考えているところである。24年度の鹿教湯の再生計画策定とも非常に密接に関係しており、鹿教湯温泉 100年ブランド創造プロジェクトという名称で、100年先でも賑わいのある温泉を目指すということで、昨年度から引き続いて検討している。昨年度はアドバイザーとして別府温泉で旅館を営んでいる方をお招きし、色々な課題を洗い出すなどし、今後の研究の中に活かしていきたいということで活動している。今年度についても、既に何回か開催しているわけだが、地域の旅館経営者の方ばかりでなく、地域で商店を営んでいる方や地元の若者等々にも声を掛けながら、鹿教湯の再生について現在研究している最中である。

(健康福祉課長補佐) 要援護者登録制度の進捗状況について。登録制度は、丸子地域全 26自治会と制度の締結を目標にしているが、はじめにモデル地域 5自治会を選定し、取り組んできた。昨年度は残り 21自治会全てを回り、制度の説明や協定の締結等の説明をさせていただいている。そのうち 8自治会と協定の締結ができた。この協定は、三者協定という名称で、自治会・上田市・社会福祉協議会の 3者で協定を締結している。今年度は、残る 13自治会中 5自治会と新たに協定の締結を目標に取り組みを進めている。5自治会のうちの 1自治会については 4月 3日に協定を締結することができた。

(地域振興課長) 明るく親切的な市民満足度の高いセンターづくりということで、昨年に引続きの内容、さらなる具体的な取り組みということで、取り組みとすれば、基本的にはここに書いてある内容ということで、昨年と大きく変わることはない。繰り返し接遇向上に向けた取り組みをしてい

くという意味で、研修会やアンケートを実施する中で、まだまだ改善できる点があるのではないかとのこと。それらの改善点に向け、職員にフィードバックする中でさらに向上を目指したいということである。新たに取り組みを進めるということではなく、さらなる満足度の向上に向けた形の取り組みを進めるということ考えている。

(委員) 要援護者登録制度「住民支え合いマップ事業」の協定はどの程度のものか。一人の人がある人を絶対に見なければいけないとしてしまうと重荷になってしまうのではないかと。

(健康福祉課長補佐) 協定の内容については、雁字搦めにここまでこれをこうしなければいけないということではなく、この制度の導入にあたり、自治会・市・社会福祉協議会それぞれがこんなことをやっていきますという内容を書いてあることで、例えば自治会の皆さんには、要援護者を登録してくださいと依頼があった場合に、その方と支援して下さる方(現在2名の方をお願いしているが)2名を探していただくといった基本的な内容取り組みの合意書のような内容になっている。

(委員) 支援者の2人はどのような立場でどのようなことをするのか。

(健康福祉課長補佐) 協定関係の追加説明にもなるが、個人情報保護に関する内容については協定で謳わせていただくようになっている。個人情報の関係は非常に皆さんシビアであり、情報は漏らさないということなどを謳っている。2人の役割について、災害時は安否の確認や避難誘導といったことがあるが、声掛け等の通常の活動もお願いできればとなっている。ただ、非常に難しいという御意見もいただいている。日中は不在の家が多いとか、もし何かあった場合に個人的に責任を負わされてしまうのではないかと心配だという声もあるが、災害時はまず自らの安全を守ってもらうことが基本になるので、そういったことはないという説明をしている。

(委員) 重点目標4-1について、もう少し詳細な説明がほしい。

(産業観光課長) 遊休荒廃地になっている一つの要因は高齢化で、農作業ができないという農家が増えていることから、地域の農業の担い手の皆さんに農地を貸すなどして耕作していただくということ。農地の集積化を図っていきたいということである。

(委員) 予算的にはどうか。チップシュレッダは、24年度当初予算で地域内遊休荒廃農地等整備用機械貸付事業ということで400万円ほど予算計上されているが、それ以外にはあるのか。

(産業観光課長) 農地を集積化していく中で担い手になった方には、認定農家ということから、農業をしていく上での必要な資金の融資や補助制度などで対応している。荒廃地対策として遊休荒廃地を地域のグループなどで農地を開墾した場合には、補助事業として10アールあたり35,000円の補助金が出る制度がある。

(3) 平成24年度当初予算における主な施策について(各担当課長)

・平成24年度当初予算における主な施策について、各担当課長から説明。

資料3: 平成24年度 当初予算における主な施策(丸子地域の主な事業)

主な質疑の内容

(委員) 資料3の事業費の中に、地域予算欄を設けた意味づけ、理由を教えてください。

(地域振興課長) 地域に特別に配分する予算というような意味合いで地域予算という扱いをしている。地域内分権の話もある中で、地域に特徴的に配分していく予算であるという意味で、ある程度一般会計の一般予算と色分けはしてあるということ。その中に持寄り基金を取り崩して使う分がどれくらいあるかという部分も示してある。地域の特徴的に配分された予算ということ御理解いただきたい。

(委員) 域内の水路修繕について、建設課と産業観光課、農業関係との兼ね合いでどちらともとれる感じがする。建設課でやると無料、産業観光課でやると2割負担である。負担についても、地域

内分権と今まで協議会で色々話していただいたと思うが、本来なら負担金ではなく助成金であるべきだと思う。表現もおかしいのではないかな。

(産業観光課長)水路等の改修については、分担金事業と補助金事業の二通りに分かれている。分担金については、市の分担金条例に基づき、全体事業費の20%については地域の負担となっている。補助金事業についても、補助金の負担は80%、地元の負担が20%ということで同じになっている。また、両方とも予算の範囲内ということになっている。分担金事業より補助金事業の方が若干予算は少ないが、御相談いただきながら活用していただければと思っている。

(委員)域内の市民が利用する水路等の補修等は建設課でやっていただいている。私の住んでいる下長瀬は、農業と住民の生活用水の両方を兼用している場所がかなりある。その場合について、市の判断だけではなく地元でも確認すれば、住民の用水として使っている部分が大分あると思う。そういうところを勘案していただき、なるべく建設課でやっていただきたい。もう一点、遊休農地の活用について各地域で問題になっているが、この地域が一番有望だと言われている太陽光発電を検討する余地はなかったのか。

(センター次長)農地に太陽光発電というのは、基本的にあまりないだろうとは思っているが、まだ特にそこまで遊休荒廃農地を太陽光発電にという部分は、あるかもしれないとは思っているが、今のところ具体的にはない。若干そういう場所もないわけではないと見ており、内部では検討しているところもあるが、それについてはまだはっきりと方向性が出たというわけではない。いずれにしても、本庁の生活環境や政策企画の新エネルギー推進担当との話し合いの中で進められればとは思っている。基本的に、畑や田んぼになっているところは難しいかなと思う。それ以外の地目ならなんとかなるのではないかなと思っている。

(委員)小さい面積だと県知事、大きい面積になると農林水産大臣管轄になり、その点で地元の意見とはまた違って来る対応ができるのではないかなと思う。その辺りも研究していただければ、違う視野も広がるのではないかな。

(センター次長)庁内でそういう意見が出れば研究してみたいと思う。

(委員)35番の商業振興事業費の予算配分を教えてください。

(産業観光課長)上丸子中心市街地再生支援事業補助金は約800万円、げんき丸子フェスタ補助金は300万円。中心市街地空き店舗活用助成事業補助金については、補助金ということで1/2補助、予算は50万円。店舗改修事業補助金ということで、補助対象経費の1/3以内、予算は100万円。

(委員)藤原田、平井の次に旧丸子町で高齢化率が進んでいるのが海戸地区。先ほどから活用方法の話が出ているファーストビルもそこにある。旧海戸商店街は、上丸子商店街の中心ぐらいのところにあっただが、一番高齢化が進んでいる。そういう認識の中で、空き店舗を考えていただくなら、まず空き店舗の補助、空き店舗をいかに活用していくのか、それに対してそこで起業する人がどうしたら現れてもらえるか。そういう意味で、佐久市岩村田商店街の例など、もう少し研究する余地があると商工会では思っている。これだけ高齢化が進み、廃業されている方もおり、この空き店舗をどう活用していくのか。既存の商店や既存企業は、それなりの政策の中で生きる道を模索しながらやっていくわけだが、新たに起業していこうという人たちには、ある程度行政から大きな手を差し伸べていただければと思う。そういう意味では、中心市街地空き店舗活用助成事業補助金何分の一云々ではなく、このためにこうだよという、もう少し大きな予算を組んでいただきたいと思う。そういう時には持寄り基金を出してもいいと思う。金利を取らず無償で貸し付け、何年間で返すという方法もある。知恵を出せば、色々なことができると思う。新しく起業をしていこうという人たちに、もう少し夢のある、血の通った行政をしていただきたい。

(産業観光課長) 先日も上丸子のトットコ会の若い皆さんとお話する機会があり、その中でもお聞きしている。今後も皆で知恵を出し合いながら考えていきたい。

(委員) トットコ会の皆さんは既存の商店の方々である。私がお願いしたいのは、空き店舗を利用して余所から起業していただけるような道を開いてもらいたいということ。そういう仲間を増やせるような視点を変えてもらいたいということ。

(産業観光課長) 御意見を参考に検討させていただきたい。

(委員) 17番の子育てひろば事業はどこでやっていて、設備はどんなものがあるのか。

(健康福祉課長補佐) 丸子サロンと言い、カネボウ跡地ツルヤさん向かいの平屋の一軒家でやっている。設備としては、部屋と遊具、絵本などがある。

(委員) 対象年齢はいくつくらいか。

(健康福祉課長補佐) 0歳児から概ね3歳未満です。

(委員) 専門職の誰かが来て指導してくれるのか。

(健康福祉課長補佐) パート職員が2人おり、保育士の資格を持った職員がいる。

(委員) 例えば、初めて子どもを持ったお母さんの相談なども受けてもらえるのか。

(健康福祉課長補佐) おじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいない方や子育てをどうしたらいいかわからない若いお母さん方がおそらく増えている。そうした方々の相談に乗ること、お母さん同士の交流を深めましょうということを目的としてやっている施設になる。

(委員) そこで問題解決をしていこうということか。

(健康福祉課長補佐) 問題解決ができるかはわからないが、例えば誰にも相談できない、どこへ行ったらいいかわからない、保健センターでは敷居が高いなといったような場合に、お母さん同士や職員にお話を聞いていただければと思っている。

(委員) 12番の防犯灯LED交換補助金交付事業について、昨年の各自治会の実績等を出していただけないか。

(市民生活課長) 個別に照会いただき、回答させていただきたい。

4 丸子地域協議会における協議の進め方について

・事務局から資料説明。

資料：丸子地域協議会における協議の進め方について

主な質疑の内容

・特になし

5 その他

(1) 次回以降の会議日程について

- ・第4回丸子地域協議会 平成24年6月28日(木曜日)午後1時30分から
丸子地域自治センター 4階 講堂
- ・第5回丸子地域協議会 平成24年7月26日(木曜日)午後1時30分から
- ・第6回丸子地域協議会 平成24年8月28日(火曜日)午後1時30分から
- ・第7回丸子地域協議会 平成24年9月27日(木曜日)午後1時30分から
- ・第8回丸子地域協議会 平成24年10月25日(木曜日)午後1時30分から
- ・第9回丸子地域協議会 平成24年11月26日(月曜日)午後1時30分から
- ・第10回丸子地域協議会 平成24年12月21日(金曜日)午後1時30分から

資料：平成24年度丸子地域協議会年間行事予定表(案)

(2) その他

(会長)今日の午前中、正副会長会に出席してきた。丸子から出たわがまち魅力アップ応援事業の意見書についての話もあり、前向きに検討したうえで、各協議会でそれ以上があれば出していただき、正副会長会でまとめて25年度から実施していきたいという方向性が出た。「まりんこ号」の関係の意見書については、前回の協議会決定を受け、5月21日に上田市へ提出したので御承知いただきたい。

(委員)前回会議の公共交通「まりんこ号」運行見直しの際の発言について確認したいことがある。「まりんこ号」を検討する中において、ゆくゆくは武石や東御のデマンド交通のようなものまで検討していくような意味合いがあったが、これまでの公共交通の研究会では、デマンドは大変お金が掛かるので考えられないという話があったような気がする。食い違いがある感じがするので改めてお聞きしたい。ゆくゆくはデマンドを考えられるのか。

(建設課長)誤解があったようで、申し訳ありません。私が言ったのは、デマンドについては将来のことはわからないがということで、今できること、バスを活かして早急に行えることを考え、それをまとめて提案したという意味合いである。「まりんこ号」の運行見直しに関する意見書については、会長からも報告していただいたが5月21日に市へ提言させていただき、5月24日に上田市地域公共交通会議が開催された。その席で提案していただいた内容を具体的に運行表等付け、委員会で審議いただき無事認めていただいた。前回会議で久保田委員から都市計画道路について見直す委員会を立ち上げてほしいとの御意見もいただいた。本庁の都市計画課に今の状況等を問い合わせたのでその結果を本日報告させていただきたい。都市計画課では、都市計画道路見直しについて積極的な御意見をいただき大変ありがたいということ。上田地域も丸子地域も都市計画道路の指定が大変古く、丸子地域も昭和27年の指定がかなりあるというような状況である。そのため、現在の土地利用や交通体系に合わないという現状は十分認識している。このために昨年度から上田都市計画、丸子都市計画の都市計画道路の見直しを進めるために建設事務所と打ち合わせを始めている。見直しにあたっては、まず県で示された見直し基準に沿いながら、県との協議、その後に住民説明、パブリックコメント、最終的には市の都市計画審議会の審議を経て決定していく、変更していくことになる。市としても、見直しの必要性を十分認識しており、具体的に見直し作業を始めているということである。見直しをする中で時期を見て皆様には御説明し、また御意見を伺うこともあるかと思うので、その際は是非よろしくお願ひしたい。地域協議会の皆様には、都市計画道路を含め、都市計画について説明が必要なきには、都市計画課から御説明したいと思っている。

(委員)依田川リバーフロント市民協働事業に、地域協議会から成澤さんが代表という形で出て実行委員長をやっていた。今年度から成澤さんが協議会委員ではなくなったので、後任という形で継続して協議会から誰かに出てもらいたい。後日、人選を諮っていただきたい。